

初めての韓国語学研修旅行・ホームステイ

韓国語を習い始めて3ヵ月余りの頃、「4泊5日・全羅北道・全北大学での語学研修、ホームステイ」の企画を先生に紹介されました。「大丈夫かな？」と不安でしたが、こんな機会はめったにないと思い応募しました。

初めて訪れた11月の韓国・全羅北道は、行く先々で艶やかな紅葉に染まっていました。中でも「冬のソナタ」でチュンサンとユジンが歩いていた『メタセコイア』の並木が多く、その美しさは圧巻でした。通りに入ると、韓国伝統の建築様式（韓屋・ハノク）が建ち並び、どこか懐かしい思いにさせる風景でした。また、とても有名な全州ビビンバ作り体験では本場の味を堪能しました。

全北大学での語学研修は、入門コース6名のクラスで授業はヘヨ体の作り方、ホームステイに備えての挨拶、韓国で大ヒットした「어머나」の訳、そして合唱など。少し緊張しましたが、日本語と韓国語で、ユーモアを交えながらの授業は、わかり易く楽しくまた韓国人の人々の日常など、身近なことをたくさん教えていただきました。

ホームステイ当日は、準備してきた自己紹介を何度も読み返し、「大丈夫！」と、言い聞かせながらホストファミリーとの対面式に臨みました。しかし、あまりの緊張で頭の中は真っ白になり、紙に書いた自己紹介は半分しか読めませんでした。1泊お世話になりましたが、声に出せたのは、「맛있어요」「괜찮아요」「감사합니다」。ばかりで、ほとんど会話になりませんでした。頭の中に単語は思い浮かばず、筆談すらできない自分が歯がゆく、勉強不足を痛感しました。

韓国滞在最後は念願のソウルでした。初めてのソウルの夜はとても華やかで活気に満ち溢れ、減り始めていたエネルギーを十分補充できました。

振り返ると、日常では経験できない密度の濃い5日間でした。日本語もそうですが、見知らぬ土地での会話は、やはり少しの勇気と度胸が必要でした。失敗や恥ずかしさを恐れては、コミュニケーションは成り立たないことを肌で感じました。そして、読み・書き・の重要性も再認識しました。

韓国は、鹿児島から一番近い国です。これからも機会を見つけて訪れたいと思います。また将来、観光ガイドをやってみたいと始めた韓国語。きっとこの経験がその日の糧になると信じ、そして何よりも楽しみながらこれからも学んでいこうと思います。有難うございました。



全州ビビンバ：生卵が苦手な炒り卵に変更



韓定食



全北大学「メタセコイア」の並木



韓国伝統の建築様式（韓屋・ハノク）



授業風景



授業が行われた言語教育センター



仁川空港にて



ソウル・明洞 ロッテデパート前



韓屋村



参加者全員



殿洞聖堂